

## 地域団体の紹介

### 「初日の出を祝う会」開催

緑が浜自治会 会長 刈間 昌仁

緑が浜自治会の恒例行事、「初日の出を祝う会」を2年ぶりに実施しました。浜須賀陸橋を降りた地先の浜で、日の出とともに6時から豚汁と御神酒を振舞い、子どもたちにはお菓子を配りました。

例年は前日から準備をはじめ、豚汁やお汁粉などを作るのですが、感染対策上やむなく今年はインスタントの豚汁を用意し、お湯を注いで提供するという形で650食を配りました。まだオミクロン株の流行直前で落ち着いていたことから、何とか実施することができました。

太陽も江の島から姿を現し、神々しくとても美しい初日の出で、浜を埋めた皆さまからも歓声が起こっていました。今年はずっとないほど浜に人が出ており、県道添いには横浜や相模ナンバーなど県内他地域の車も多く、コロナ禍で制約が続く中、束の間のイベントを心から楽しんでいるようでした。



### ワンバウンドバレー

松浪地区体育振興会 前園 トシ子

体育振興会では、2年連続いろいろな大会が中止となりましたが、体育館が使える間はソフトバレー・ファミリーバドミントン・ワンバウンドバレーを練習していました。1つでも大会をやりたいと考えて、ソフトバレー、ファミリーバドミントンをやる予定でしたが、今現在、新型コロナウイルスの急拡大でまん延防止が出てしまったため、残念ながら中止となってしまいました。

そこで、新スポーツ「ワンバウンドバレー」の紹介をしたいと思います。ボールは50cm×40cmのおむすび型変形ボールを使用してバドミントンのダブルスコートで行います。競技者は5人(前衛2人後衛3人)です。サービス及び相手からの返球は必ずワンバウンドさせてから3回以内に相手に返球し、1回で返球することはできません。軽い変形型ボールを使用するためスピードが遅く突き指の心配がないこと、ボールの飛ぶ方向に意外性があり予測がつきにくいことから、バレーボールが得意な人が必ずしも有利ではなく、上手下手に関わらず誰でも楽しめるスポーツです。

体育館が使用できるようになったら月1回汐見台小学校で練習しますので是非体験してみてください。お待ちしています。



### 認知症サポーター養成講座&さざなみ出前講座

松浪地区地域包括支援センター 森 森恵

1月11日(火)、松浪コミセンの前田館長と有志の皆様へ『さざなみ出前講座&認知症サポーター養成講座』を開催させていただきました。

さざなみ出前講座では「包括支援センターって何をしているところなの?」として包括支援センターの仕事内容や介護保険の申請の仕組みを、紙芝居を交えてお話しさせていただきました。

認知症サポーター養成講座では、脳の働きからみる認知症と、認知症への接し方等を一緒に勉強させていただきました。また、講座受講者の方へ『認知症サポーターオレンジカード』をお渡ししました。

認知症サポーター養成講座及びさざなみ出前講座は地域のサロンや個人の集まりでも開催させていただいております。お気軽にご相談ください。

【松浪地区地域包括支援センター(松浪コミュニティセンター内)】 0467-39-5901



### 編集後記

★コロナ禍で我が身を守る策を講じてきましたが2年間も続いており、感染者数も減らずに有事に脆弱なエッセンシャルワーカーに支障を来しております。この災いの中で我々諸団体もZoom、Skype等々をはじめとして工夫し、それぞれのニューノーマルを築かねばなりません。足踏み状態で、退屈な現況からの脱却を目指し、自身の心と身体の筋トレをしなくてはなりません。そして新年度に臨みたいですね。(朝岡)

★みなさんに楽しんで読んでいただけるような松浪地区の記事を発信していけたらと思っています。(佐々木)

## まつなみだより

### 会長あいさつ

梅花の候、松浪地区の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

天候に恵まれた今年の初日の出は素晴らしいものでした。日の出の時間が近くなるにつれて人出も多くなり、マスクをしている人、人、人…!!太陽が顔を出した瞬間には、大きな歓声やうなり声が響きわたりました。

この初日の出の素晴らしさを知らないのか…。新年早々「新型コロナウイルスオミクロン株」が世界中で流行し始めました。皆様も昨年同様うがい・消毒・マスクの着用を心掛けてください。

松浪地区まちぢから協議会としても、昨年できなかった「コミセンまつり」を今年こそは開催しようと実行委員を集め3度の企画立案会議を重ねていましたが、その矢先のオミクロン株による「まん延防止措置」の発令で、今年度のコミセンまつりも中止せざるを得なくなりました。実行委員をはじめスタッフ一同残念ですが、この企画をまた来年度に活かしていきたいと思っております。

### 4月からごみ有料化がはじまります!

#### なぜごみ有料化が必要なの?

【現状】

・ごみの減量化がなかなか進まず分別が不十分

【目的】

・将来にわたって安定的にごみ処理を継続していくために、これまで以上にごみを減らす。  
・有料化による収入をごみ処理施設の整備や焼却灰の再資源化などの財源として活用する。  
これからも私たちに出来ることを考えていきましょう。

#### サイズ・価格・大きさ

区分	サイズ	1枚	1セット(10枚)
燃やせるごみ	5ℓ	10円	100円
	10ℓ	20円	200円
燃やせないごみ	20ℓ	40円	400円
	40ℓ	80円	800円

■コンビニエンスストア・スーパーマーケット・ドラッグストア・ホームセンターなどで販売

■資源物は今までどおりの分け方・出し方で無料で回収します。詳しい出し方は「ごみ有料化」ガイドブックを参照してください。



令和4年3月15日発行(第25号)  
発行:松浪地区まちぢから協議会  
HP: <https://matunami.jimdo.com/>  
印刷:(有) 仲手川印刷



松浪地区まちぢから協議会 会長 前田 積

4月からの新年度、松浪地区まちぢから協議会運営委員会は新型コロナウイルスに負けないよう色々と事業を計画していきたいと思っておりますので、松浪地区の皆様、ご協力をお願いいたします。

また、4月1日より『ごみ有料化』が始まります。松浪地区14自治会ではそれぞれ機会を設け、茅ヶ崎市資源循環課の方より説明を受けて受けております。市の指定袋を使用してごみを出し、きれいな松浪地区にしていきたいです。



公募委員 川田 昌子

#### ごみの減量化が進むと…

- ・整備費や処理費が抑制できる
- ・二酸化炭素の排出を減らし環境保全やエネルギー消費が節約できる
- ・良好な都市環境が次世代につながる



#### ごみ有料化のお問い合わせ先

【茅ヶ崎市環境部資源循環課】  
0467-82-1111

すごいんです 緑の風!!

緑が浜小学校P.G.T 副会長 和田 久美子



緑が浜小学校 広報紙「緑の風」が第43回全国小・中学校PTA広報紙コンクールにて佳作、令和2年度神奈川県PTA協議会広報紙コンクールにて優秀賞(県教育長賞)を受賞しました。

同校の広報紙が全国に選出されたのは4回目。今回受賞した昨年度の広報紙では、緊急事態宣言による長期休業を余儀なくされ、ボランティアで集まることもできない中、Zoomでミーティングをし、6月の臨時号をすばやく発行。子どもたちや保護者の不安な気持ちが、希望や期待に置き換わってほしい!という願いを込めて、学校と家庭をつなぐメッセージを伝えました。

また、コロナ禍における子どもたちの生活を聞き取ったアンケートはコンクールで評価された内容です。今ま



でのあたりまえが崩れた生活の中、保護者それぞれの考えが違うことは当然。その違いを子どもにも理解してもらおうと呼びかけました。

他にも創立20周年記念企画や様々な行事が中止になった6年生に向けてのメール、子どもたちが大人の悩みに答えるコーナーなど、学校の楽しい雰囲気が伝わってくる、緑小愛にあふれた内容が盛りだくさん。

学校に足を運ぶ機会が大幅に減ってしまった保護者や地域のみなさまにも、先生やP.G.T.の取り組み、子どもたちの様子などが伝わるようにたくさんの工夫がされています。

松浪中学校自治会交流会

松浪中学校 校長 亀田 春彦

松浪中学校では「地域に生きる一人として、自治会の役割や地域の現状を知り、地域の一員としての自覚を持ち、地域の活動に参加する態度を育成する」ことを目的として、自治会交流会を実施しています。

今回もコロナ禍でしたが、12月21日(火)に11地区の自治会の皆さまにご来校いただきました。ありがとうございました。

この自治会交流会は、市内で実施しているのは松浪中学校だけです。地域との深いつながりを大切にしている本校の大きな特色となっています。

本校は、今年度より学校運営協議会を立ち上げ、「地域とともにある学校」づくりを進める、コミュニティスクール実践校となりました。

この自治会交流会はコミュニティスクールの要の事業であり、本来であれば6月に実施予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で昨年度は中止、今年度は12月に

延期しての実施となりました。

また、例年は全体会を体育館で行い、全校生徒と自治会の方々が一堂に会してまちから協議会会長、生徒会長、学校長があいさつをしますが、今年は校内放送により行いました。

生徒たちは、地域の清掃活動や防災訓練、お祭りなどの行事を通して、お互いが顔見知りとなり、困った時には助け合えるような関係を築くことが一番大切であることを学びました。

そして私からは、自治会の役割を理解して、現在お世話になっていることへの感謝を忘れずに、遠い将来?「自治会の役員を積極的に引き受けることができる人」になってほしいと生徒たちに伝えました。



松浪地区さんぽ道 ~松浪小学校誕生物語3~ 元松浪小学校教頭 鴨志田 聡



新しい木造校舎が完成し、昭和32年2月に4年生から1年生までの554名が松林小から移ってきます。

しかし、校舎ができて教室が足りず、校地内に残っていた神戸銀行の社員寮の畳の部屋を教室に転用し授業を行っていました。もちろん、元社員寮ですから子どもたち用のげた箱などはありません。もともと建物の縁側にあった靴を脱いで置く大きな石(左写真の赤マル)を子どもたちも使うことになりました。現校舎正面玄関脇の植え込みの西端に置かれた大石がその石です。



元神戸銀行社員寮での授業風景



現松浪小正面玄関左の植え込みに置かれた大きな石

神戸銀行社員寮(昭和32年5月)

煌人にエール!! Vol.5 松浪地区出身の煌人(きらびと)をご紹介します、エールを送りましょう。

今回の煌人は、常盤町にお住いの「<sup>はまし さら</sup>浜地沙羅さん」です。汐見台小学校・松浪中学校の卒業生で、現在、湘南工科大学付属高校1年生です。海で人命救助をする「ライフセービング」で、彼女は昨年10月に藤沢の鶴沼海岸で行われた全日本選手権の「オーシャンウーマン」という種目で、大会史上初の高校生優勝を果たした煌人です。

水難事故の防止や人命救助の訓練・技術をスポーツにしたものが「ライフセービング」というスポーツで、ビーチフラッグ・ボードレース・海を泳ぐスイム・砂浜を走るラン・サーフスキーレース等様々な競技があります。

競技経験者のご両親のもと、小学1年生の時に藤沢の西浜ライフセービングクラブに入りました。弟君も同じ頃に始めた良きライバルのライフセービング一家です。小学校の頃から登校前の朝5時半から1時間半ほど泳ぎ、夕方も2時間ほどのスイム・ウエイト・ランニングの練習をしてきました。小学6年生の時にジュニア全日本のボードレースで優勝。中学1年生の時には、全日本選手権で44年の歴史の中で初の13歳での決勝進出、そして高校生になって日本一のメダルを手にしました。

沙羅さんは、「全日本は、自分一人の力で勝ち取ったものではなく家族や仲間やいろいろな人のおかげで優勝で

きました。ライフセービングは自然が相手。練習できることが当たり前ではなく、海は常に同じではないことを教えてくれるし、新しい発見があります。海が自分を成長させてくれるので、感謝しなければいけないという事を小さい頃から感じたり、教えてもらったりして成長できたことが私の原点です。今まで苦しくてつらい練習はたくさんあったけれど、楽しい仲間もいるしライフセービングを辞めたいと思ったことはありません。」とお話いただきました。

普段はお料理が大好きで、友達とおしゃべりをしたりショッピングしたりする背の高い素敵な女子高校生。子どもが大好きで、将来は小学校の先生になるのが夢だそうです。

「これからの目標は、今年の10月にイタリアで開かれる世界大会に出場することです。」と元気に話してくれました。海とともに成長している煌人「浜地沙羅さん」を皆さんで応援しましょう! (記:佐々木)

